

御殿場市交通空白地分析業務委託について

1 「交通空白地」とは

「交通空白地」とは、一定の距離に駅やバス停などがない箇所を指す。近年は、自治体の判断で当該地域を指定できるようになっており、公共交通が運行していない時間帯、傾斜、人口密集率等により、指定している自治体もある。このような地域が全国で 2,057 地区(令和 7 年 5 月時点)存在しており、国においては、地域交通を地方創生の基盤と位置づけ、R7 年度～R9 年度までの 3 年間で集中対策期間として、「交通空白」解消に向けた取組を強力に推進している。

【交通空白の例】

- ・鉄道駅から 500m 圏内にあるものの、列車本数が極めて少なく、通院や通学など「生活の足」として利用しづらい地域
- ・最寄りのバス停から 300m 圏内であるが、急坂の多い団地など、高齢者にとって移動が困難な地域 等

2 当市の公共交通の現状

御殿場市の地域公共交通等は、鉄道（J R 御殿場線）や路線バス、高速バス、タクシーのほか、民間企業送迎等により構成されている。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化や、交通事業者の運転手不足等の影響により、バス路線の減便や撤退、一部タクシー事業者の撤退が生じている。このため、既存の公共交通ネットワークのみでは、市内全域の移動需要を十分にカバーすることが困難となっており、それらを補完する「新たな公共交通システム」の導入や、既存交通の再編が求められている。

3 当市の交通空白への調査状況

移動の足の確保に向けて、講演会への参加や既に新たな公共交通システムを導入している先進自治体への視察等行ってきたが、十分な調査が行われず導入した自治体では、地域の実情に合わず利用が定着しなかった事例が多く見られた。このため、本市においては、導入に先立ち、様々な視点から実態把握を行うとともに交通事業者へのヒアリング等を行い、慎重に検討を進めることとしている。

そのような状況の中、令和 6 年度には、公共交通計画の策定に伴い市民アンケート調査を実施し、市民の移動手段や移動ニーズ、外出頻度、交通モードごとの利用実態、新たなモビリティの導入必要性などについて調査した。さらに、令和 7 年度には、「御殿場市地域交通における課題の抽出と住民意識調査分析委託業務」を実施し、地区別かつ高齢者人口にも着目して交通空白地区を把握するとともに、住民の交通に関する意識調査データの集約・分析を行い、地区別の交通課題を整理した。その結果、「新たな公共交通システム」の導入が必要と考えられる地域について一定の把握が進んだ一方で、「実際に人がどこからどこへ、どの時間帯に、どの程度移動しているのか」といった移動実態については、十分に把握できておらず、具体的な施策検討を進める上では、更なる実態把握が必要な状況にある。

4 御殿場市交通空白地分析業務委託について

上記内容を踏まえ、今後の調査では、まず鉄道・バス・タクシー事業者が保有する移動データ（OD データ）や、パーソントリップ調査等の移動実態データを収集・分析し、交通空白マップに反映することで、実際の移動実態に基づいた交通課題の把握を行う。

そのうえで、ライドシェアやデマンド交通等の新たな公共交通システムに加え、既存交通の再編や地域における移動支援サービス、タクシー及びバス利用料金助成事業の拡充等、複数の選択肢の中から本市の実情に最も適した交通施策の提案を受けることを目的とする。

なお、本業務は、民間事業者の先進的な知見や調査・分析手法、提案内容を総合的に評価し、本市に最も適した事業者を選定するため、プロポーザル方式により実施する。

※OD データ：出発地と到着地を記録した移動データ

※パーソントリップ調査：人の一日の移動行動を把握する調査

5 今後の御殿場市公共交通の目指すもの

少子高齢化に伴い、今後公共交通における重要度が増していく中で、自家用車から公共交通への切り替えを促すことを目標に既存交通の問題点や課題を明確にし、交通弱者を取り残すことの無いシステム構築を進める。

また、今回の分析により市内各地区の状況とそれに最適な交通システムを提案していくことで、各地区に対し、交通システム構築の上で欠かすことのできない存在であると改めて認識してもらい、市だけでなく地区も含め御殿場市全体で公共交通のさらなる改善、発展を目指していく。